

とがしやかたあと なぞ つつ やかた すがた 富樫館跡 - 謎に包まれた館の姿

とがしやかた 富樫館は、1335年(建武2年)にあしかがたかうじからかがこくしゅごにんに任じられたとがしたかいえ富樫高家がせいむをおこなうしゅごしよとして構えた館です。館の年代は、やかたねんだいしゅつどいぶつぶんけん出土遺物や文献により、むろまちじだいせんごくじだいかんが室町時代から戦国時代(14~16世紀)と考えられています。



とがしやかた い みぎ しゃしん
富樫館と言えば、右の写真をよく見る気がするよ



ほくつちようさかくじん
発掘調査で確認された堀

みぎ しゃしん 右の写真は、1994年のほくつちようさかくじん発掘調査で確認されたとがしやかたかこほりあと富樫館を囲んでいた堀の跡です。V字の形に掘り込まれたこの溝は、みぞはばやく幅が約6~7m、ふかやく深さ約2.5mを測ります。なかからはせいかつしやうかんが生活に使用したと考えられるとうじきかがみ陶磁器や鏡が出土しています。

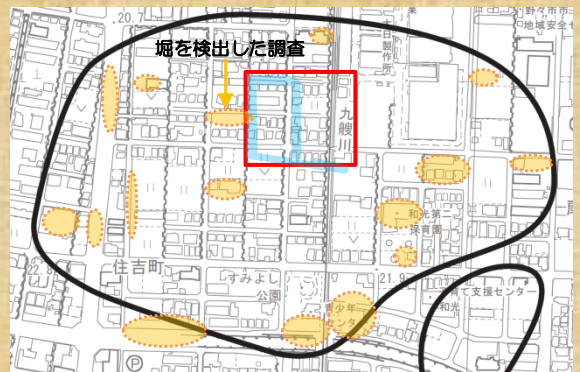
やかたほんたい
館本体についてはどのくらい分かっているの？



やかた たても の 館の建物については、じつはほくつちようさわ実は発掘調査から分かることはほとんど何ともありません。みぎすあかわくしめぶぶんとがしやかたほんい右図の赤枠で示した部分が富樫館の範囲とかんがぶぶんきいろしめぶぶんかこ考えられる部分で、黄色で示した部分は、過去ほくつちようさおこなほしよ発掘調査が行われた場所です。

こうしてみると一目瞭然ですが、館内部での発掘調査は一度も行われておりません。

じっさいほくつはじまいぞうぶんかざいてき実際に発掘して、初めて埋蔵文化財的なけんしやうざいりやうざいりやう検証ができるのですが、その材料がほとんどないというのが実情です。

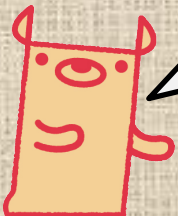


とがしやかたすいていはんい
赤：富樫館推定範囲

ほりすいていはんい
青：堀推定範囲

ほくつちようさおこな掘り調査が行われた場所

しかし**武士の館**はある一定の規則性を持った構造をしていると考えられますので、**同時代の他の館の例**を参考にとがしやかた富樫館がどのようなすがた姿であったのかをかんがえることはできそうです。



れきしてきののいちかかあか
歴史的に野々市に関わり深い富樫氏だけ、その館については謎に包まれているんだね